

國學院大學学術情報リポジトリ

特集の解説

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 古沢, 広祐 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00001001

特集「資本主義の未来」

特集の解説

本号の特集企画は、本学にて2016年2月と2015年3月に開催された公開研究会がもとになっています。下記に紹介するように、自主研究会「資本主義再考・研究会」と大学院特定課題研究グループが共催した企画で、テーマとしては「資本主義」について根本的に問い直そうとの問題意識で開催されたものです。

公開研究会2016年2月のテーマは、「資本主義はどこへ向かうのか？ーピケティ『21世紀の資本』論争を超え、何を展望するか」で、これは2015年3月の公開研究会「『21世紀の資本』（トマ・ピケティ著）と現代資本主義ー格差拡大社会の分析と克服の道をさぐる」のテーマを引き継いだものでした。

2015年の研究会では、基調講演として伊藤誠・元本学教授から「『21世紀の資本』論ー格差再拡大の政治経済学」という演題でT.ピケティが提起した論点が示されました。基調講演をうけて、木村秀史・島根県立大学総合政策学部講師（本学卒業）、結城剛志・埼玉大学経済学部准教授（本学卒業）、紺井博則・本学経済学部教授の3人のパネリストによる発題と総合討論が行われました。2016年の公開研究会では、ピケティ論争（2014年）が嘘のように潮を引いた後をふりかえりつつ、あらためて現代資本主義がどこへ向かおうとしているのか、その変革の契機や可能性について幅広く論じました。その切り口は、貨幣・コミュニケーション・地域の視点から現代資本主義の限界とオルタナティブの可能性、地球環境問題・エコロジック的制約の視点から現代資本主義はどう変わりうるのか、といった論点を柱に立てたものでした。

本特集は、上記の2回の公開研究会を踏まえたもので、資本主義の行方について5編の論考を収録したものです。最初に、伊藤誠・元本学教授から「資本主義の限界とオルタナティブ」として、多重化する現代資本主義の諸矛盾の深化を主に1980年代以降の新自由主義の展開から解きほぐし、多重危機を乗り越えるための手がかりを総論的に示しています。そこでは、旧ソ連型社会主義（国家集権型）や20世紀社会民主主義（労使協調モデル）の限界を踏まえて、地域の自治や相互扶助・協同的な連帯経済を重視する社会的経済の新たな道すじ（オルタナティブ）に期待をよせています。

続いて古沢広祐・本学教授から「資本主義のゆくえと環境・持続可能な社会」というテーマで、環境・社会面から総論的な問題提起が示されています。深刻化する現代資本主義

(写真 1)



(2015 年公開研究会, 基調講演風景)
(写真は, 本学広報課提供)

(写真 2)



(2016 年公開研究会, 総合討論風景)

の格差問題の実態を資本の動態（矛盾）として示しつつ、資本主義が環境の限界から修正される動き（環境レジーム形成）、国連の持続可能な開発目標（SDGs）などを見定めつつ、新たな社会制度形成として3つのセクター（公・共・私）のバランス調整や〈共〉の発展可能性について展望しています。

次に、西部忠・北海道大学教授から「グローバリゼーション：市場の内部化による資本主義市場経済の進化」というテーマで、資本主義の進化する形態についてモデル提示して解析を試みています。資本の商品化の極まり（内包的深化）として、労働力自体が擬制資本（人的資本投資）として展開する究極段階を展望し（一般商品化 G モデル）、資本の運動を操る複製子を制御するルールや制度の重要性を提起しています。

続いて、西部論文のモデル提示を土台として労働のあり方をめぐる論考が、中馬祥子・本学教授による「人的資本からの解放：西部モデルを用いて資本主義を再考する」です。西部モデルの究極形態「資本がミーム（文化遺伝子）であり、人間はミームのプログラムに操られる乗り物」に至るという現実状況について、労働をめぐる諸矛盾の実態を考察することの重要性、格差や差別、労働評価（ケアワーク、クリエイティブワーク等）の問題点を提示し、労働力の商品化・資本化を批判的に考察しています。

最後は、再び西部忠教授による「地域通貨の分化：グローバル化・脱工業化する資本主義の下での先進国と途上国の地域通貨の課題と特性の違い」をテーマとする論考が、将来的可能性のひとつの展望として提示されています。前掲のグローバリゼーションの論考と対をなす論考であり、資本の運動を操る複製子を制御するルールや制度をどう再構築するか、通貨のあり方に着目して資本の自己増殖からの解放を「地域通貨」を事例としてとりあげています。そこでは、従来の資本主義・市場経済の枠組みを超えるコミュニケーション

ンメディアとしての可能性を含みつつ、情報化社会におけるイノベーション展開や地域再生とコミュニティ再建にも通じる社会実現の可能性について、途上国の事例紹介とともに論じています。

以上、5つの論考はそれぞれに独自の視点と切り口から現代資本主義を論じていますが、そこに通底している問題意識はかなり共通しています。高度に発展した現代資本主義が孕む矛盾の解明とともに、諸矛盾の克服の手がかりを見出したいとのつよい願いを内在させています。そこに見いだそうとしている方向性については、執筆者それぞれの視点で違いはあるもののそれなりに共通性があると考えています。

今回の特集で掲げた「資本主義の未来」という問題設定は、テーマとしてはあまりにも大きいことから、なかなか十分には応えきれないもどかしさを感じる読者も多いかもしれません。また問題の切り口や究明の仕方も、各人各様なところがありますが、そのこと自体は資本主義社会の成り立ち方がひじょうに多面性をもつ存在であることを示しているのではないかと考えます。執筆者それぞれの視点や切り口から、「資本主義の未来」について何を見て、先行きをどう展望しているか、ぜひ本特集をご熟読いただき、現代資本主義がいったいどこに向かうのか、問題意識を共有していただけますことを心より期待しております。

特集・責任編集者 古沢広祐
(2016年12月24日)

注

公開研究会 2016年2月11日のプログラムの内容は、以下のとおりです。

- ・報告1「資本主義はどこへ向かうのかー貨幣・コミュニケーション・地域の視点から」 西部 忠（北海道大学大学院経済学研究科教授，進化経済学）
- ・報告2「資本主義が転換する契機とはー環境・開発レジーム形成の視点から」 古沢広祐（本学経済学部教授，環境社会経済学）
- ・報告へのコメント1「逆流する資本主義から見えてくるもの」 伊藤 誠（元本学経済学部教授，東京大学名誉教授，理論経済学）
- ・コメント2「社会に埋め込まれた経済（ポランニー）からの論点」 室井 遙（東京大学大学院総合文化研究科博士課程，経済人類学）
- ・パネルディスカッション（総合討論）：「現代資本主義の矛盾克服の可能性を考える」
パネラー：報告者，コメンテーター，司会：中馬祥子（本学経済学部教授）

〈〈公開研究会・録画記録のアーカイブを公開中〉〉

* 西部氏報告 <https://www.youtube.com/watch?v=zuV6-Af4Wys>

* 古沢氏報告 https://www.youtube.com/watch?v=6_7Qmd9Q0gA

* 伊藤氏・室井氏コメント https://www.youtube.com/watch?v=_rgV6Vbm5W0

* 質疑回答コメント <https://www.youtube.com/watch?v=0AYEolmv8Dk>

〈〈簡単な概要紹介〉〉（映像アーカイブをご覧になる際の参考として概略紹介）

第1報告（西部，進化経済学）は，3つの柱から問題提起しています。導入は現代のグローバリゼーション（資本主義）の解説（多少とも専門理論や学説を下敷きに展開），そして教育が投資（人的資本論）としてしか考えない風潮の歪みを論じています。次に脱工業化とサービス・情報化に移行した現代経済（情報・金融資本主義）の歪み，一元的マネー（貨幣）経済がもつ危うさを批判しつつ，交換を支える貨幣の再構築へ向けた方向性（地域通貨，多元的交換・コミュニティ形成ツール）が提示されました。

第2報告（古沢，環境社会経済学）では，資本主義を論じる視点・論点が多岐にわたることを踏まえ，ピケティの格差・不平等の分析が継続的に展開されている動きを紹介しました。それは大きな波紋を広げており，米国のサンダース旋風（大統領選挙過程で人気を集めた民主党候補）に通じています。紆余曲折はあるものの，極点にまで達した新自由主義的資本主義（62人の富豪が世界人口36億人分の資産を保有）は調整を迫られており，偏狭なナショナリズムやファシズムに傾斜するか，より公正で民主的な制度形成に向かうのか微妙な局面にある点にもふれました。方向性としては，旧来の国家制度だけではない多様な価値と政治形態，とくに新しい環境・開発レジーム形成が，企業の社会的責任を問い，協同・共生的な経済と社会形成の可能性につながっていく期待が示されました。

続くコメントとしては，とくに交換関係（貨幣）からの変革がはたして生産関係，生産様式につながるのか（伊藤，理論経済学），貨幣と市場の意味性の回復への期待（室井，経済人類学）などといった論点などが述べられました。多数の参加者・聴衆から様々な意見やコメントが出されました。公開研究会は，資本主義の可変性や拡大増殖する力のダイナミズムを視野に入れつつ，その弱点と不安定性を超えていく契機を，どこに見出せるかに焦点をあてようとした点にあります。必ずしも明解な答えを提示できていませんが，「資本に転化しない貨幣」（交換様式）の実践的な試みの重要性，逆流（暴走）する資本主義を抑え込む公的（政治的）な制度介入の方向とともに地球市民的な多様なレジーム形成の役割の重要性などが，メッセージとしては示されているかと思います。（文責：古沢広祐）

*（研究会の様子：大学広報課）

http://pr.kokugakuin.ac.jp/event_extramural/2016/02/11/173006/

http://pr.kokugakuin.ac.jp/event_extramural/2015/03/16/192719/

*（外部リンクにおいても紹介があります）

<https://sites.google.com/site/rckenkyukai/>

http://www.blog-headline.jp/sustena/2016/02/post_118.html
